

学校教育目標 未来に向かい 自ら学び 行動する 三成っ子の育成 ～未来を生きる力を育む～

a ミッション	小中連携教育を基盤とした確かな学力定着の取組の充実	a ビジョン	危機意識から改善意識そして未来志向 【誠実・愛情・一丸】
---------	---------------------------	--------	------------------------------

評価計画+A7:Q19				自己評価					学校関係者評価			改善計画		
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月	1月	h 年度達成	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案
					g 達成値	g 達成値				イ	ロ	ハ		
課題を解決し、主体的に学ぶ児童の育成	【学力向上部】 基礎的学力の育成	①授業改善を推進する上で、問題発見・解決の過程を重視する。	国語・算数の単元末テスト85点以上の児童割合	低学年 85% 国算	78.0%		88.8%	B	低学年の国語科では、達成率は91.9%だった。言葉の力を活用することや、漢字の定着に課題がある。算数科では、85.6%で問題文をむかひこと、基礎的な計算を素早く解くことに課題があった。 中・高学年の国語科では、72.3%だった。文章の読解において、部分的には理解できるが、文章全体をとらえることに課題がある。算数科では、84.3%だった。求めるための情報の書き出しができていない。また、図と式と言葉がつかみあがらず、求める数に図を活用できていない。また、小教や中教をメーンとするために、簡単な数字に置き換えて考えることができない。	3		・全学年や低学年での学力格差が将来的（中学校）に格差拡大に繋がると考えられます。勿論、授業研究・授業改善も必要ですが、個々の児童の生活をしっかりと把握しながら、学習意欲・生活意欲を持たせて指導することが大事だと思います。 ・基礎学力が大事であることに同意します。	国語科においては、低学年では学習した言葉の力を活用できるような場面を多く設定する。中・高学年では、文章の全体をとらえるために、筆者の意図、文章の山場、要約、構成をつかませる。 算数科においては、問題場面をイメージさせるために、低学年では体験的な活動を重視し、中・高学年においては、図を用いて自分の考えを表現する場を設定する。	
			計算チャレンジの目標達成した児童の割合	1学期 60% 算	49.7%		82.8%	B						達成率は66.7%だった。各学年で反復練習を行ってきたが、低学年においては不十分な部分があった。また、中・高学年では、前学年までの定着に課題がある。
		②ドリルタイム等を活用し、基礎的な計算練習を徹底する。	計算チャレンジの目標達成した児童の割合	1学期 60% 算	49.7%		82.8%	B	達成率は66.7%だった。各学年で反復練習を行ってきたが、低学年においては不十分な部分があった。また、中・高学年では、前学年までの定着に課題がある。	低学年においては、継続して素早く正確に計算ができるように反復練習を行っていく。中・高学年においては、つまづきが見られる計算を必要に応じて復習する。				
規範意識をもち、自己決定できる児童の育成	【心づくり部】 規範意識や相手意識の醸成	【思いやりあふれる学級】 ①教師が模範となり率先して挨拶を行う。 ①挨拶をすることの良さを児童に繰り返し伝えていく。	①教師の見取りによる、気持ちのよい挨拶が実行できた児童の割合	80%	61.3%		76.6%	C	「気持ちのよい挨拶ができていっている」に対する児童の評価は、約86%と高い結果が出ている。教師の見取りと児童の実感との差の聞きに大きな課題がある。	3		・挨拶は表現あり、表情が伴うことから心身一体と思います。 ・教師の見取りと児童の実感との格差は、どこから生じているのが検討する必要があると思います。例えば、「気持ちのよい挨拶」を具体的に提示し、判定（A・B・C）で評価することもよいと思います。	気持ちのよい挨拶について、教員と児童の共通認識を図るようとする。また、挨拶の意義や気持ちのよい挨拶ができることで生活がより良くなることを共に考えていきたい。	
		【規範意識の高い学級作り】 ②キラキラアンケート実施時や日々の生活の場において、きまりを守る良さを児童に繰り返し伝えていく。	②児童アンケート「きまりを守れた」の項目に肯定的に答えた児童の割合	80%	86.9%		108.6%	A	アンケートの結果から、きまりを守ることに大切さを感じている児童が多くなることはとてもうれしく思う。しかし、教師の視点からすると、少し高学年と感じる声もあり、きまりの質を高めていく必要があると感じる。	3		・「きまりの質を高める」は、指導者側の目標を具体的に且つ明確にする必要があると思います。「児童アンケート」等の工夫・改善や教職員の意識統一が必要だと思います。	「ノーチャイムデー」を2学期から実施し、時計を見る習慣を身に付けさせていく。また、体づくり部が実施している「せいけつチェック」で身体的な目標を具体的に且つ明確にする必要があると思います。「児童アンケート」等の工夫・改善や教職員の意識統一が必要だと思います。	
心身共に健康な児童の育成	【体づくり部】 運動の楽しさを実感し、自ら進んで体を動かそうとする児童の育成	【児童の主体的活動】 ①毎月1回「教室からっぽデー」を設定し、学級活動を活用して外遊びの内容を考えたり、振り返りをさせたりする。	①教師の見取りによる、設定した「教室からっぽデー」に、外遊びをした児童の割合	90%	92.7%		103.0%	A	各学級の学級委員等による主体的活動により、みんなで外遊びをしようとする意識の高まりが感じられる。学級によっては、毎月1回以上「教室からっぽデー」を設定している学級もある。しかし、外に出ても、積極的に体を動かしていない児童も見られる。教師による声かけや学級での話し合い（遊びの内容・ルールの工夫）が必要である。	3		・意識の高揚が見られることは、素晴らしいことだと思います。今後も学級委員等による呼びかけや、それに対する教師の支援をお願いします。	2学期から「教室からっぽデー」の取組を継続していく。また、児童会主導の「たてわり遊遊」を月1回以上実施し、同学年とも異学年と一緒に体を動かそう楽しさを味わうことができるようにしていく。 熱中症予防や感染症予防にも留意しながら、取組を実施していく。	
		【教員の指導による活動】 ②運動習慣（がんばりカードや外遊び状況をもとに）についての学級指導を適宜行う。（第4火曜日の学級朝会など）	②児童アンケート「運動が好き」と肯定的に答える児童の割合	80%	87.0%		108.8%	A	「運動が好き」と肯定的に答える児童の割合が4月は86.7%で、7月は88.4%と向上してきている。「教室からっぽデー」の取組や体育指導、学級での取組（がんばりカード）などの成果が出ていると考えられる。「運動が好きではない」と答えている児童は少なくないので、その児童に対する対応や支援が課題である。	3		・現在「運動が好きでない」と答えた児童に対しての取組は、大変難しいと思います。新たに「運動嫌いな」「体育嫌いな」をつくりださない配慮や、将来的に児童が運動に対する興味・関心を持つような指導をお願いします。	2学期から運動習慣（がんばりカードや外遊び状況をもとに）についての学級指導を継続する。また、2学期の体育朝会を低・中・高学年で分かれ、それぞれで考えた運動を実施していく。3学期は、大縄跳びを中心に取組む、大会も実施していく。	
子供を安心して通わせることができる学校作り	【教務部・総務部】 学校と保護者との相互理解の醸成	①教育内容の質の向上と内容の精選を行い、「働き方改革」を進め、時間と心のゆとりを生む。計画的・実態に応じて服務研修を行い、不祥事防止を図る。	①教職員アンケート「自分の職務に充実感をもっている」の肯定的評価の割合	80%	100.0%		125.0%	A	運動会や「山・海・島体験活動」、国際交流等、様々な行事を通して、児童の成長や頑張りを教職員や保護者とともに共有し、取組を進めた成果と捉えている。働き方改革の質をより高めることで、教育内容の充実を図り、児童一人一人の成長に繋げていく。	3		・「教職員アンケート」結果から、学校経営が上手にできていることがわかります。素晴らしいです。 ・素晴らしい内容だと思います。 ・先生方の日々の努力を想像すると、心身の健康が心配です。日々の努力が、数学的でなく、児童の笑顔や成長につながる内容になってほしいと思います。	勤務時間外在校時間4.5時間未満の職員を80%を目指す。2学期以降も引き続き、「自分の職務に充実感をもっている」の肯定的評価の割合を100%と維持できるよう職場環境の見直しを図る。	
		②教職員による学校たよりやHP、コドモン等を通じて情報発信を行い、保護者の満足度を高める。	②保護者アンケート「安心して子供を学校に通わせている」の肯定的評価の割合	90%	87.8%		97.6%	B	達成率97.6%となり、即時解決に向けた取組への評価が高い。また、「信頼できる」「児童が楽しく遊んでいる」児童を適して教職員の姿を評価していただいている。 しかし、6.4%の未提出の保護者がいる現状がある。	3		・学校と家庭が上手にできていることが伺えます。只、アンケート未提出家庭（6.4%）が気になります。この数字をどのように捉えるのか、検討が必要だと思います。 ・保護者と共通した視点を持つようになることいいです。	書面に見られない保護者の不安や思いにできるだけ気持ち、応えることができれば、全教職員で組織的に取り組む体制（縦・横・相）を整える。引き続き、即対応に取組む、一人一人の児童や保護者の思いに寄り添った教育活動を行う。	

【自己評価 評価】

A: 100% (目標達成)
C: 60% (もう少し) < 80

B: 80% (ほぼ達成) < 100
D: (できていない) < 60

【外部評価】 イ: 自己評価は適正である。ロ: 自己評価は適正でない。 ハ: わからない。

人として育ち 育てる学校 育てる心 ときたえる力